

(仮訳)

プレス・リリース

2022年2月9日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、バーゼルⅢ枠組みの実施に関する合意を一致して再確認するとともに、パブロ・エルナンデス・デ・コス氏をバーゼル銀行監督委員会の議長に再任

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）の上位機関が、バーゼルⅢ枠組みのすべての要素を実施するとの合意を再確認
- パブロ・エルナンデス・デ・コス氏を、バーゼル委議長の2期目に再任
- フランソワ・ヴィルロワ・ド・ガロー氏の後任となる、中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（以下「GHOS」）の議長を選定するプロセスを開始

バーゼル委の上位機関である GHOS は、本日、バーゼルⅢ枠組みのすべての要素を実施するとの合意を再確認した。

当初のバーゼルⅢ改革は、新型コロナウイルスのパンデミックの間、銀行システムがこれまでのところ業務及び財務面において強靱であり続けることを確保するための中心的な役割を果たしてきた。世界金融危機の経験とは異なり、銀行は依然として強靱であり、信用力のある家計や企業に貸出を続けている。

2017年に最終化され、今後実施されるバーゼルⅢは、リスクアセットの算出における過度なばらつきを軽減し、銀行のリスクベースの自己資本比率の比較可能性と透明性を向上させるなど、金融危機によって顕在化した規制枠組みの弱点のいくつかに対処しようとするものである。これらの弱点に対処することは、パンデミック以前と同様に、今日でも重要である。

GHOS は、すべてのメンバー法域におけるバーゼルⅢの実施状況及び進行中の計画をレビューした。GHOS は、国際的に活動する銀行に対して規制面での公平な競争環境を提供するために、バーゼルⅢ枠組みのすべての要素が完全、適時かつ整合的に実施されることを確保する重要性を強調した。GHOS メンバーは、これらの基準を可能な限り早期に実施することへの期待を一致して再確認した。

その目的のために、GHOS は、バーゼル委に対し、定期的なモニタリング報告書

を通じたものを含め、規制の整合性評価プログラム（RCAP）の一環として、バーゼルⅢの実施状況を引き続きモニタリングすることを指示した。

GHOS はまた、スペイン中央銀行総裁であるパブロ・エルナンデス・デ・コス氏を、2 期目そして最後の任期となるバーゼル委の議長に再任することに合意した。GHOS メンバーは、パブロ・エルナンデス・デ・コス氏が過去3 年間にわたりバーゼル委の議長を務めたことに感謝するとともに、彼の継続的なリーダーシップに祝意を表明した。パブロ・エルナンデス・デ・コス氏の2 期目の任期は、2022 年3 月7 日付で開始する。

フランソワ・ヴィルロワ・ド・ガロー氏は、国際決済銀行理事会の議長に任命されたことに伴い、GHOS の議長を辞任した。GHOS 議長の後任の選定プロセスがこれから開始される。